

令和 4 年度国際理解ワークショップ 進行シート

令和 4 年 9 月 13 日更新

大 学 名 : 上越教育大学タイトル : 郷土料理から考える SDGs

1 : 本ワークショップの要旨

児童生徒が住んでいる地域の郷土料理から SDGs を考えます。郷土料理の材料や作り手について、参加者が主体となって捉え、日本や世界の現実をもとに、その郷土料理が持続可能なのかを考えます。最終的には、地域の課題をグローバルに捉え、持続可能な社会の創り手としての態度を育み、できることから自ら行動するための一歩となることを目指します。

2 : 本ワークショップの目的(目標、実現したいこと)

地域の郷土料理から SDGs を考えることと通して、持続可能な社会の創り手を育成するための一歩となるように取り組む。

3 : 本トピックをとりあげる理由

また、SDGs はただ考えるだけではなく、2030 年達成に向けて 実際に行動することが大切である。行動に移すためには、児童・生徒が SDGs の 17 のゴールを自分事として捉え、行動することに価値を感じる必要がある。そのためには、遠い世界のことなく、身近なヒト・モノ・コトを取り上げることが大切である。郷土料理について考えること、SDGs の目標である 7、11、13、14、15、16、17 等の複数のゴールが相互に関連付いていることを容易に理解することができ、実際に課題解決に向けて行動しやすいトピックであると考え、このことから本ワークショップの目的である「持続可能な社会の創り手の育成」に向けて、郷土料理を本トピックとして取り上げた。

4 : 活動過程 (使用時間 : 90 分 参加人数 : 児童数 23 名 (5 年))

過 程 (所要時間)	活動内容	具体的な発問・ 説明・動きなど	ねらい	使用する 教材・備品	予 想 さ れ る 反 応、その他注意 事項
導 入 : 起 (20分)	○授業者の自己紹介 (2分) (進行: 清水) ○郷土料理について、クイズに参加して知識を得る。 (11分) (金澤) ○補足資料提示、説明 (5分) (小野) ○郷土料理の資料を提示し、「強み」と「課題」について、クイズを通して考える。 (4分) (佐藤)	○児童と授業者の交流を行う。 ○郷土料理の定義を知る。 ○郷土料理8種類と、のっぺの材料を揃えることが難しいことを理解する。 ○食料自給率、水、資源、エネルギー問題を理解する。 ○ 郷土料理、1学期に学んだ地域の食べ物が持続不可能(ヤバイ)であることに気付く。	○児童との交流を深め、学習の意欲を持たせる。	○パソコン、プロジェクター ○タブレット(児童グループに1台)	○カフートへの誘導は、学級全員ができていることを確認してから進める。 ※: 自給率、仮想水、フードマイレージの資料を掲示
展 開 23 : 承 (承1: 5分)	○「何がやばい」かについて、教師と問答する。	○やりとりの中で、「文化」、「環境」、「健康」の視点をもとに、揺さぶる。	○郷土料理の持続可能性を理解する。		○メインティーチャー以外のメンバーでそれぞれの個やグループを周り、困っている場面に介入する
(承2: 10分)	○ やりとりをもとに、自分の気付いた柏崎の「ヤバイ」を付箋に			○模造紙(修正)、マジック、付箋を配布する (3人)	(ファシリテーターの役割を行う) ※メインティーチャーも説明終了後に支援に入る。

(承3: 8分) 発展 ①	書く。(佐藤) ○グループになり、付箋を紹介しながら模造紙に貼る。 休憩 10分 ○各グループの記述内容をモニターに写し、紹介する。 (6分) 金澤 ○「ヤバイ」に対して何ができるか? (10) ○グループ内で発表しながら模造紙に貼る(6分) ○付箋を分類する (10分) ○他のグループの模造紙を見る。 (6分) ○郷土料理とSDGsの関係に	○似ているものは同じ気球に貼る) ※休み時間のうちに、写真を撮る。 ○「自分にできること」「誰かと協力してできること」の視点で分類する。 ○ギャラリーウォーク形式で自由に見に行く。他の班の、良いと思ったところに丸や線で記入させる。		・発表したスライドを黒板に掲示 (小野) ・ラベル、SDGsの資料配布 (清水、金澤)	
---------------------------------	---	---	--	---	--

	ついて知る。 (2分) (佐藤) ○振り返りシート記入 (5分)				
発展： 転 (35分) 転1: 12分 転2: 20分	○課題解決のために自分ができることを、付箋に書く。 (6分) (清水) ○グループ内で発表しながら模造紙に貼っていく。 (6分) (清水) ○「今すぐ行動できること」→「●●年後までにできること」などの軸で付箋を張り替える。(8分) (小野) ○全体発表 (12分) (金澤)	○「ペタッとSDGs」に記入する。 ○似ているものや同じものは近づけて貼る。 ○気球の四角の中に文字を書き入れる。 ○タブレットで模造紙を撮影し、モニターに映す		○「ペタッとSDGs」をグループに1冊配布する。 (3人)	○メインティーチャー以外のメンバーでそれぞれの個やグループを周り、困っている場面に介入する(ファシリテーターの役割を行う) ※メインティーチャーも説明終了後に支援に入る。 ○補助(3人)

まとめ：結 (10分)	○リフレクシ ョンシートに 今日の学びを 記入する。 ○仲間に発表 する。 (小野)		○学びを振 り返り、今 後の自身の 学びに繋げ ようとする。	・リフレクシ ョンシートを 配布する(3 人)	
----------------	--	--	--	----------------------------------	--

評価：児童が地域の課題やSDGsを自分事と捉え、解決していこうとする当事者意識が生まれたか？
(付箋の内容、リフレクションシート)

5：新型コロナウイルス感染症拡大防止のための工夫や留意点

- ・ 参加者全員、マスクを着用する。
- ・ 教室内での移動を少なくする。
- ・ 一人一台タブレット端末を活用し、児童生徒同士の接触をなるべく少なくする。

6：会場のセッティング（対面の場合のみ）

7：使用する教材

パソコン、プロジェクター、模造紙、付箋、マジック

8：参考にした資料

9：その他

問題集 1 郷土料理の説明として正しいのはどれでしょう？

- 1 自分の地域で食べられる美味しい料理
- 2 地域の人が好きなかんだて
- 3 地域で取れたものを活用して、生活にあった食べ物として作られる料理

2 柏崎市の郷土料理は何種類あるでしょう

- 1 7
- 2 8
- 3 100

3 この郷土料理の名前は何でしょう

- 1 こくしょ

- 2 のっぺ
- 3 にしめ

4 のっぺに入れる材料はどれでしょう？

1 さといも、にんじん、こんにゃく、ごぼう、あぶらあげ、しいたけ、ちくわ、ぎんなん、さやえんどう、しょうゆ、酒、さとう

- 2 ぶた肉、じゃがいも、こんにゃく、にんじん、とうふ、たまねぎ、みそ
- 3 とうふ、ぶた肉、たまご、だし、しょうゆ、こしょう、ゴーヤ

5 さといも、にんじん、こんにゃく、ごぼう、あぶらあげ、しいたけ、ちくわ、ぎんなん、さやえんどう、しょうゆ、酒、さとう の12の食材のうち、柏崎市内で全て作ることができるでしょうか？

- 1 できる
- 2 できない
- 3 わからない

資料…写真やグラフを活用して

3、4種類の自給率（グラフ等で示す）、肥料
https://www.maff.go.jp/j/wpaper/w_maff/h21_h/trend/part1/chap1/c1_04.html（メイドイン～）、
エネルギー（輸送のガソリンなど）

（みんなが何かしないとなくなってしまう。）

郷土料理って持続可能！！？？？ → 可能じゃない！→実はこれって柏崎だけの問題じゃない！（地球規模の課題） → これってSDGsの問題そのものだね。SDGs 登場（担任に確認）

- ・外国への依存（12）
- ・エネルギー問題（17）
- ・輸送に排気ガス問題、温暖化（13、14、15）
- ・日本の農家の衰退（

じゃあどうする？（小学校の要望（落とし所）を確認してWSの課題を明確にする）